



# パートナー通信安曇野 第3号

2008.10.28

発行:NPO 法人信州ふるさとづくり応援団安曇野支部 編集:木船



## 《お知らせ》「第3回ふるさとづくりフォーラム in 安曇野」開催！ ふるってご参加ください。

11月8日(土)に研成ホール(碓山美術館南)において「第3回ふるさとづくりフォーラム in 安曇野」を開催します。今回は「市民活動と地域づくり」をメ

ンテーマに、市内で活動する市民団体の活動内容の紹介や松本大学・福島明美先生の講演会、ぬかくどご飯と木工製作の体験会、歓談も含む情報

交換会など、大人から子どもまで楽しめる盛り沢山のイベントになっています。楽しみながら安曇野の今後について考えてみてはいかがでしょうか。

\*写真は別紙をご覧ください。

## 《報告その1》「第4回ふるさとウォッチング in 安曇野」を開催しました。

安曇野の魅力を再発見するウォーキングイベント「第4回ふるさとウォッチング in 安曇野」を、9月28日に飯田地区で開催。市内外から100名近くの方々にご参加いただきました。コースは、生涯学習センター旧信濃教育会館/重文)を出発点とし、拾ヶ堰、飯田砦址、本棟造り家屋、道祖神、旧糸魚川街道、屋敷林、飯野屋(現在「蔵久」が営業中)を経て、生涯学習センターに戻るという約5km。最後に前回同様ぬかくどご飯と安曇野産黒豆の味噌汁の昼食をとりました。今回はさらに4名の方にパートナー登録をして頂きました。

さて、今回も参加者の皆さまからいただいたアンケートの結果について、簡単に報告致します。

まず「印象に残った場所」としては「歴史的町なみと屋敷林」(31%)と、「拾ヶ堰」(21%)がぬきんでたのに対し、「旧信濃教育会館」と「飯田砦址」及び「田園風景」はいずれも8~9%ほどでした。

次回の希望地については、「歴史的町なみと屋敷林」(23%)が前回アンケートより5%上昇した一方で、「堰や湧水等の水辺」(28%)は8%下がりました。堰の看板たる拾ヶ堰を見学したことで「水辺」については満足したという方が若干おられたということでしょうか。

今回から加えた「このイベントをさらに充実させるには」という質問に対しては、「回数を多くする」(37%)がダントツ。次いで「人数を少なく」(22%)と「説

明を多く」(15%)が高水準で続きます。これにはもっといろいろな地域を歩いてみたいという方が多いと思われるとともに、なんとなくただ歩く時間を減らし、より多くの説明を明瞭に聞き取りたいという方が多いと受け止めています。いずれも人員の規模拡大、ガイド力向上に関わる当NPOの今後の大きな課題です。

ところで今回は「その他感想」欄の中に「農業を守らなければ」というニュアンスの記述が散見されました。農業あつての水路と水田、すなわち安曇野であることを念頭に置けば、安曇野(市政)の進むべき方向もおのずと見えてくるような気がします。貴重なご意見ありがとうございました。

## 《報告その2》 松本大学「梓乃森祭」でぬかくどご飯。120個即完売！

上記の福島先生のはからいで、去る10月11日(土)に松本大学学園祭『梓

乃森祭』で当NPOにも場所を貸していただけることとなり、「釜戸炊きおにぎり体験」と称してぬかくどご飯を提供してみました。1個50円と格安ではあったものの炊き上がり20分で60個(4升分)完売。あわてて追加で2升炊いてもやはり「即完」で、さらにもう2升追加して炊くという大変楽しい騒動となりました。これを契機に当NPO内でもぬかくどを購入し、ぬかくどご飯提供を一つの事業として展開していこうという考

えでまとまりました。非営利事業でなければならぬ点や食品衛生管理に関する点など調整を要することはあるものの、当NPO主催以外のイベントなどにおいても「ぬかくど隊」が出張サービスを行うなど、今後活躍の場を広げていきたいと考えています。

ご要望がありましたら皆さまからもお問合せいただきたいと思います。よろしくお願ひ致します。

ぬかくど本体を購入された方も！



## 《報告その3》 「ブランドデザイン会議」に参加協力しています。

9月27日の「秋の拾ヶ堰を満喫！～カヌー、草取り、ぬかくど体験」に参加協力しました。

10月7日「安曇野市市民活動センターくるりん広場」オープン。登録料500円/年で登録団体募集中！お問合せは「わの会」(0263-82-1922)まで。

10月18日「第2回安曇野ブランドウォーク～長峰山・光城山」に参加協力しました。次回は12月の予定。



秋の拾ヶ堰にカヌーが走った。草取りもしっかり。



ブランドウォーク。約30人が長峰山と中部日本の植物の生態について学んだ。



## ご案内

### 《連絡事項①》パートナー募集について

ふるさとパートナーの現在の登録者は53名。会費は年度毎に1000円。さらなる会員を募集中です！

### 《連絡事項②》NPOパートナーの特典について

当NPOのふるさとパートナーの特典は、私どもの主催するイベント情報がこの「通信」を通してだれよりも早く入手できる点です。したがって毎回定員を超える人気の「ふるさとウォッチング」に優先的に申込みができるとともに、

「ふるさとづくりフォーラム」の体験コーナーのようにパートナーの方に限ってのみ予約可能な事柄もあります。

Iターン者と地域住民が共に快適に暮らしてゆける「新しいふるさと」づくりを模索している当NPOにとって、パー

トナーの皆さまはとても心強い支援者です。これからも当NPOでは安曇野の舞台に様々な催しを行っていく予定ですので、さらなるご声援とご協力をお願いいたします。

## はじめまして②

### 《「信州ふるさと作り応援団」のスタッフを紹介します。》今回は

治海と書いて「はるみ」と読む、このどこか文学的で洒落た名前。幼少の頃は「はるみちゃん」と呼ばれていたに違いない、がしかし時は流れて70余年。現在NPOの長老にして最強の語り部と言えよこの人、佐伯治海だ。

聴衆が多いほど血潮が沸き立ち、

ニヤつく顔をこらえきれない。国営アルプス安曇野公園や臼井吉見文学館を始め多くの場所で安曇野を語り続ける彼の辞書に、「緊張」と「老い」の二語はない。

語り部は説く。「聴衆を聞き役にさせてはいけない。拍手一つでもいいから

参加者にさせることが大事だ。」と。それを実践する彼は、ある時いつも簡単に30人の聴衆を即興で合唱団に仕立ててしまった(…集団催眠術師か)。

下にグレーのヒゲをたくわえた“はるみちゃん”は、いつしか長老から“超”老へと変わりつつある。(木船)

## フォーラム②

### 《当NPOの活動、安曇野などについて縦横に語ります。》こちらも佐伯治海です。

#### 『邂逅』

峻険な山並みが稜々と連なる北アルプスを、どこの地籍からも眺めることの出来る安曇野市。身近にあって和ませてくれる故郷の自然は、人々の長い暮らしの中で育まれて来たものです。私も、安曇野の湧水で産湯を使って以来の73年間をなんとか無事に過ごさせていただきました。

この郷土を子孫に引き継ぐ為、種々のボランティアやNPOへ積極的に参加して来ました。そのおかげで多くの仲間と出会えた上に、安曇野の自然と

文化に大変深く係わりながら、様々な会の運営にも携わって参りました。その体験から、地域づくり活動をする団体にとって不可欠なものを四つ申し上げます。それは一つには集まりの中に「ばか者」がいる事。二つ「よそ者」がいる事。三つ「若者」がいる事。そしてもう一つ大切な事、そう女性が加わる事。この4つです。

これらの条件が満たされているのが『ふるさとづくり応援団』です。歴史を学び、現状を知り、目標に向かう「ふる

さとウォッチング」がそのことを物語っています。第一回より回を増すごとに参加者が増え、パートナー参加が定着して来ています。



パートナーの皆さん、互いにコミュニケーションを取り合いながら、楽しくて明るい

地域社会をつくるため、共にがんばりましょう。(佐伯)

## 「ふるさと」を読む②

### 《書評》 田舎暮らし、安曇野に関わる図書へ当NPOスタッフがご案内します。

丸山健二著「田舎暮らしに殺されない法」(朝日新聞出版刊)

#### ～超辛口の田舎暮らし論～

田舎に移り住もうと考えている人は、本書を読むと、不愉快になり、腹が立ち、不安になるかもしれない。

何しろ、『定年になったから田舎でのんびり暮らそうなんて自立心の欠如もいいところだ、「自然が美しい」とは「生活環境が厳しい」ことだ、田舎の人は排他的でよそ者に冷たい、「長いものには巻

かれろ」「お上には逆らうな」の卑屈な精神に毒されているからまともな付き合いなどできない、正義を主張しようものなら村八分にされるだけだ、年寄りだからと親切にすればとことんたかられる、田舎にプライバシーはない、最近では田舎も物騒だから武器を用意し一人でも立ち向かえるよう身体を鍛えておけ』といった調子なのだ。

しかし、よく読めば、田舎に行けば何とかなんとといった甘い期待は持

つな、行くからにはしっかりした目的を持ってといった至極当たり前のことを言っているに過ぎない。読む者を不快にさせるのは、著者の徹底した個人主義とエリート意識のせいだ。新しい土地でアルマジロのように硬い殻に閉じこもって周囲を見下していれば、疎外されるのは当たり前だろう。ここまでけなされては本当にお気の毒と、丸山氏の住む地域に住民にいたく同情してしまう。

(鈴木)

